

# 聖陵 Sei-Ryou

## CONTENTS

2009.3 Vol.12  
盛岡大学聖陵同窓会報

発行者／盛岡大学聖陵同窓会  
事務局／〒020-0183

岩手県岩手郡滝沢村滝沢字砂込808 盛岡大学内

電話.019-688-5555

ホームページアドレス

<http://www.morioka-u.ac.jp/seiryou/index.html>

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| ■ 同窓会長あいさつ               | 1 |
| ■ 特集 盛大座談会               | 2 |
| ■ 昭和62年度卒業生同窓会           | 3 |
| ■ 盛岡大学新学部設置のための寄付金協力について | 4 |
| ■ 事務局だより                 | 4 |
| ■ 編集後記                   | 4 |



一同窓会長 あいさつ  
菅原 元

### 卒業生の為に大学を存続させて下さい。

同窓生の皆さんお元気でお過ごしですか？

私達の聖陵同窓会も、26期を迎える約8千5百人の会員に至る迄になっております。さて表題は、昨年文部科学省の私学行政課課長の、私立大学協会総会での御挨拶の一節です。全国の私立大学の47%が未定員の中の経営で、我が盛岡大は4つのハンディ（私立、地方、小規模、文系）を逆手に取り、定員を満たし健全経営を維持出来ているのは、対話のある大学を目指し、学生の中へ学長自らが先頭に立ち教職員融和してきている成果で、まさにミラクル盛大（望月学長が命名）なのです。またうれしい報告ですが、盛岡さんさまが最優秀賞をダブルで受賞しました。亀澤リーダーのエネルギーをよろしくお願い致します。終わりに、今後とも大学と聖陵同窓会に温かい御支援

▶児童教育学科表現教育コース  
第22回卒業制作展  
(H21・2・27～3・1)  
テーマ「Puzzle」、12人の個性の結晶  
が全体として完成し、ひとつの大絵画(作品展)ができる。



▶日本文学科卒業制作展

(H21・2・23～2・27)





持てる卒業生になつて欲しい」というのが実感です。社会に出たときに自ら「盛岡大学を出たんだ」と言う必要はないのですが、間わたときに「あの学校を出て良かつた。それが自信になつているんだ」というようなことを言つてもらえるような卒業生が、いっぱい出でてくれればいいと実感しています。

**司会**／大学時代は「自分はどんな人なんだろう」と、自分の内面をすごくよく見る四年間でした。

先生方とのコミュニケーションを取り時間、自然に恵まれた環境で、当時は、自分からやらなければならぬということを学んだ人生の原点となる四年間でした。学長がおつしやつたように「自分の子どもを連れてきたい」。つまり、自分がその学校を出たことに誇りを持っている。そこに、何かの意味があつた。そういうことを感じられる四年間を過ごして、みんなが卒業してくれれば良いと思います。

**阿部**／現在の自分は、この大学で学ぶことに満足していますが、もっと便利に、もっと良くなつていたらしいということがありまます。休講のお知らせが、一個の掲示板に貼り出されて並んでいるのが、ちょっと見づらいと思ったことがある。ホームページに掲載されているほうが、もっと便利なと思っています。インターネットにアクセスして、確認できるといいと思います。携帯電話でホームページを見て一目で確認できる便利があれば、もっと便利な大学生活が送れると思います。

**三戸**／システム的には、ウェブで情報発信するのは問題がない。ウェブをどのように活かしていくか、これは来年度に向けての目標でもあります。「ホームページ・カミング・デイ」というものを、大きな行事と位置づけて、卒業生にまず大学に来てもらう仕掛けをしていなければいいと思っています。学園祭やサークルの集まりなどで、もとと日々的に今の大を見てもらう場を設けていく気持ちを示すことが、卒業生と繋がっていく第一

自分の子どもが何か、「そういうのを学びたい」と言つたら、私は大学に子どもを入れるでしょう、また私がここを退職して「何かを学びたい」と思つたら、やっぱり「盛大で学びたい」。そういう大学になつてほしいという思いがあります。それには何が必要か考え、縦のラインをしっかりと繋いでいくことが、大学として非常に良い意味を持つくるのではないかと思っています。

**阿部**／現在の自分は、この大学で学ぶことに満足していますが、もっと便利に、もっと良くなつていたらしいということがありまます。休講のお知らせが、一個の掲示板に貼り出されて並んでいるのが、ちょっと見づらいと思ったことがあります。ホームページに掲載されているほうが、もっと便利な状況ではあります。だから、卒業生の意識を持つてもらっている卒業生はたくさんいる。

**学長**／さつき、阿部くんが言った形態での休講連絡も早速検討します。休講のお知らせが、学生の声に弱い。それは「天の声」ですから。学友会としても、そういう要望は言つたほうがいい。僕のほうでも、できたら学友会と毎月でも対談したい。対談に参加する人の顔ぶれをかえてもらえればいい。そういう機会を創つてほしい。

**吉田**／自分が新米なこともあります。携帯電話でホームページを見て、自分で確認できる便利な情報が送れると思います。

**吉田**／自分が新米なこともあります。携帯電話でホームページを見て、自分で確認できる便利な情報が送れると思います。

**昭和六十二年度卒業生(第4回生)同窓会**

#### 六十二年度会幹事 川村匡世

昭和六十二年度卒業生(第4回生)同窓会幹事 川村匡世  
卒業生が平成二十年七月五日に砂込キャンパスに集まりました。校舎見学と懐かしい映画館通りのグランドホテルアネックスで懇親会を開催しました。

中途半端な時期の開催でしたが、七割以上の返信がありました。参加はできないけれど今は、という現況も寄せられました。申し込みを募った当初は、約五十名の参加希望がありました。中止の返信がありました。参加はできませんでした。先生方との懇親は大いに盛り上がり、三時間を超えてしました。欠席の富田光明先生からは「雄大な岩手山、穏やかな盛岡」という環境で過ごせたことに感謝。そして立派になつたみなさんにお会いできないのは残念である」とのメッセージが寄せられました。

一五〇名分の通信費を同窓会より支援いただきましたこと感謝いたします。

二十年ぶりの再会は懐かしさと共に温まるものだと実感致しました。

た。全国的に言えば、大学がなくなりの危機が迫つていて。特に私立大学・地方・文系大学は厳しく、盛大は全部にわたつていて、危機にさらされている。だから、卒業生のキャンパスに一度も足を踏み入れないという意識を持つこと。その前提として、誇りを持つこと。今、誇りが薄いとしても、悪い状況ではない。これからに希望があるということです。今のところは貧乏大学ですから、午後六時になると暖房を止めたりする(笑)。自分たちでチャンスを創り出して頑張らないと、残つていただける時代じゃないんですね。だから、もっとも基本

的などころで同窓生といつしょにやつていただきたいと思っています。

**司会**／結局は私たち先輩が、ドンドンと自分を磨き、同窓会が大事を引つ張つていかなければなりませんということになりますね。

ありがとうございました。



# 盛岡大学新学部設置のための寄付金協力について

盛岡大学では平成22年度開設をめざした栄養科学部（仮称）の設置申請を予定しています。

申請には教授陣、カリキュラム、施設・設備、経費をはじめとした多岐にわたった審査項目があり、鋭意その申請作業に取り組んでいるところです。

そういう状況の中、学校法人盛岡大学理事長から同窓会に対して平成20年10月31日、栄養科学部（仮称）新設を目的とした寄付依頼がありました。

これを受け、同窓会として役員会を開催（平成20年11月22日）し協議した結果、母校の発展の一助となるのであればと、満場一致でこの学部新設を支援するための寄付金協力をすることを決定いたしました。

寄付金額は300万円。平成20年12月17日に学校法人盛岡大学に寄付いたしましたので同窓会の皆様にもここにご報告申し上げます。



役員会 出席者一同

## 事務局便り

今号の特集で取り上げた座談会に参加しながら、在学中に不便したこともけつこう良い思い出に残っているなあ、とふと思いました。厨川にキャンパスがあつた頃はグランドも体育館もなく、体育の時は幼稚園バスでいろいろな施設を移動していたものです。何でも揃つていればそれに越したことはありませんが、開学間もない頃は大学の運営 자체と学生の思いの距離が本当に近かつたような気がします。

この会報を始め、ホームページに関しても同窓生のみなさんどんどん参画してほしいと思っています。本当にいろいろな分野、ジャンルで同窓生が活躍しているのを知るにつれ、みなさんの今の声を反映していきたいからです。内容でも技術的なことでも、もし一緒に作っていいつくださるという同窓生のかたがいらっしゃれば、いつでも大歓迎です。内容でもうござんまい。

今後も同窓生間の連帯を深め、母校の応援をしていける企画を増やしていくたいと思います。どうぞご協力ください。

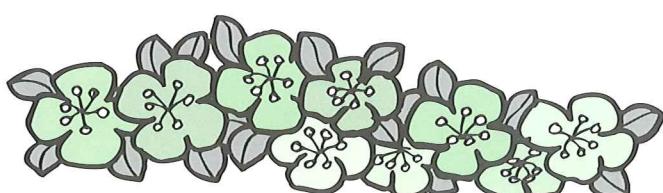
## 編 集 後 記

### ■編集委員

吉田典子（第2期生）／畠村とも子（第2期生）／川村匡世（第4期生）  
藤沢弘樹（第9期生）／佐藤大裕（第17期生）／吉田智子（第20期生）

表紙写真に取り上げた4年生の卒業制作展は、ゼミの先生方のご指導の下、個々人が力を注いで制作したばかりでなく、一致団結して企画・準備し開催に至ったものである。

取材してみると、卒業生が関心をもって大勢観に来ていた。その会話に、同じことを成し遂げた仲間の熱い同胞意識を感じた。世代を超えて、ずっとこのような同窓生の繋がりが続いていると切に思う。



### 平成19年度 聖陵同窓会決算報告 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

収入の部		
項目	予算額	決算額
終身会費	3,580,000	3,320,000
雑収入	19,000	145,247
特定期取入	0	0
計	3,599,000	3,465,247
繰越金	848,378	848,378
合計	4,447,378	4,313,625

支出の部		
項目	予算額	決算額
事業費	858,125	629,031
事務費	100,000	6,930
通信費	700,000	569,880
会議費	100,000	57,037
慶弔費	100,000	34,819
旅費交通費	100,000	40,000
財政基金繰入支	1,500,000	1,500,000
予備費	989,253	-
計	4,447,378	2,837,698
繰越金	0	1,475,927
合計	4,447,378	4,313,625